

新人看護職員研修事業

I. 貴施設に関すること

1. 施設名 (NPO法人お産子育て向上委員会 若草助産院)
 2. 所在地 (千葉県 千葉市 中央区)
 3. 設置主体 (NPO法人お産子育て向上委員会)
 4. 施設の種類 A 病院 B 有床診療所 C 無床診療所
D 助産所 E 介護老人保健施設
F 指定訪問看護事業所
 5. 許可病床数(病院のみ) 床
 6. 病床区分 A 一般病床 B 療養病床 C 精神病床
 7. 看護単位の数 (1)単位
 8. 一般病棟入院基本料区分(病院のみ) ・ 7:1 ・ 10:1 ・ 13:1
・ 15:1 ・ その他
療養病棟入院基本料区分 ・ 20:1 ・ 25:1
精神病棟入院基本料区分 ・ 10:1 ・ 13:1 ・ 15:1
・ 18:1 ・ 20:1
 9. 新人看護職員の指導体制
専任の看護教育部門 A 有 B 無
看護部門の専任の教育責任者 A 有 B 無
(※注:「専任」とは、専ら、院内の継続教育を業務とする看護職員を配置している場合をいいます。)
 10. 平成23年4月30日時点での看護職員数(実人員) (6)名
 11. 平成22年度中に離職した看護職員の離職率 (0)%
 12. 10. のうち、新人看護職員数(実人員) (1)名
 13. 11. のうち、新人看護職員離職率 (0)%
 14. 新人看護職員研修内容の公開 A 有 B 無
- * 有の場合、その公開方法をご記入ください。

(※注1:「新人看護職員」とは、免許取得後に初めて就労する保健師、助産師、看護師又は准看護師をいいます。)

(※注2:5. から8. については、平成23年4月30日現在にてご記入下さい。)

Ⅱ. 研修内容に関すること

1. 研修期間 (12)か月

2. 研修プログラム(すべて新人助産師研修)

時期 (月) ※1	研修テーマ	形式※2 (該当項目 に○を付けて 下さい。)		研修場所 (※3)	時間数	研修内容
		講義	演習			
4月	NPO法人お産子育て向上委員会の発足の経緯、NPO活動について	○		部署内	1.5	<ul style="list-style-type: none"> ・NPO法人とはどういうものかを知る ・発足の経緯を知る ・期待される役割等を理解する ・法人として目指すもの、目標について理解する
	NPO法人の役割と若草助産院について	○		部署内	1	<ul style="list-style-type: none"> ・NPO法人の助産所事業の位置づけを知る ・法人助産院として助産師が求められるものを理解する ・個人の助産院との違いが分かる
	助産所業務ガイドラインについて	○		部署内	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイドラインの内容を把握する ・嘱託医療機関とのガイドラインについて理解する
	技術演習	○	○	部署内	2	<ul style="list-style-type: none"> ・フリースタイル出産について胎児モデルを使った演習を行う ・妊婦健診技術(計測他)の習得
	妊婦の体の見方	○	○	部署内	4	<ul style="list-style-type: none"> ・若草独自の東洋医学的視点からみた妊婦の体の見方の基本を理解する ・冷えアンケートの見方、活用法について知る ・妊婦の自律神経を整えるケアを知る ・妊婦が必要な自己管理について判断し妊婦に説明できる
	薬剤管理	○		部署内	1	<ul style="list-style-type: none"> ・助産院で扱っている薬剤についての取り扱い等について(保管・使用方法等)
	医療機器の取り扱い	○	○	部署内	1	<ul style="list-style-type: none"> ・助産院で扱う医療機器の取り扱いについて理解する(保守・点検・安全使用について)
	院内感染防止について	○	○	部署内	1	<ul style="list-style-type: none"> ・血液汚染物質の取り扱いについて知る
5月	助産診断	○	○	部署内	1	<ul style="list-style-type: none"> ・妊婦健診受給券後取り扱いを知り書類を処理できる ・産科医療保障制度加入手続きについて知り書類を処理できる
8月			○	部署内	3	<ul style="list-style-type: none"> ・4月からのお産に立ち会った例について、お産の進行に合わせて助産師が行ったケアについて振り返り、それについてのアセスメントとケアの意味、介入時期等について確認する
10月	安全管理	○	○	部署外 (病院)	8	<ul style="list-style-type: none"> ・新生児蘇生法Aコース受講
11月		○			4	<ul style="list-style-type: none"> ・乳口炎の乳房ケアについて理解できる
2月	院内感染防止について	○		部署内	1	<ul style="list-style-type: none"> ・インフルエンザ対策 ・予防接種の妊婦への対応を理解し妊婦に説明できる
3月	災害時対応	○	○	部署内	1	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の対応を知る

※1 時期には実施月をご記入ください。

※2 形式には講義・演習の当てはまる方に○を記入して下さい。両方に○を記入しても差し支えありません。

※3 新人自身が所属する部署の場合「部署内」、自身の所属する部署以外の場合「部署外」と記入して、さらに、具体的な場所を記入して下さい。

※4 行が不足した場合、適宜追加してご記入ください

3. 研修の指導体制の詳細(各看護単位、看護部門)

助産院の責任者が指導を行う。
外来、陣痛中のケア、お産時の助産業務、乳房ケアを説明後、見学、実施をともに行う。

4. 各看護単位では経験できないが、新人看護職に必要な知識・技術の修得方法

必要な知識

- ・異常になった場合に病院で受ける治療・検査について
- ・自然療法や東洋医学の知識
- ・マイナートラブルへの効果的な対処や、自己管理法を説明できるような知識

習得方法

- ・研修や本での自己学習

5. 経験できる技術が少ない場合の工夫

お産に関しては助産院のため数としては少ないが、ゆっくり濃厚に接しているために、数で習得していくよりも、より具体的に経験としてのこり、技術としても確かなものになっていると感じられる。計測や心音聴取の技術に関しては、あるだけの数を新人最優先で行っている。外部で講習を受けられるものは積極的に受講するように努めている(新生児蘇生講習会・乳房ケアについてなど)。異常に関する知識などについては今後、医療機関への研修も考えている。

Ⅲ. 新人看護職員の到達度等の評価に関すること

1. 評価時期(自由にご記入ください)

仕事開始後2カ月程度・8ヶ月後・1年半～2年を考えている。

2. 評価者(自由にご記入ください)

助産院責任者

3. 評価方法(自由にご記入ください)

新人研修に関するチェックリストをもとに本人と話し合いながら評価を行う。

IV. 指導者等の育成に関すること

1. 実地指導者の育成に関する取り組み(研修の実施等)について(自由にご記入ください)

特に行われていない。新人研修に関して、チェックリストを作成し、指導について漏れのないようにしている。

2. 教育担当者の育成に関する取り組み(研修の実施等)について(自由にご記入ください)

上に同じ

V. 事業の評価等に関すること

1. 事業の実施にあたって工夫した点(自由にご記入ください)

・チェックリストを作成し、こちらが求めていることを明確にして積極的に技術の習得ができるようにした。

・新人であってもそれなりの視点や技術で対応するように促している。

・自分の意見を言えるような雰囲気を出して働きやすい感じを出している。

・詳しい説明・実践・丁寧な振り返りを行うこと。

・助産院のため健康であるという視点から離れないようにするために異常と正常を学問的にもしっかり把握しておくこと(検査データ・胎児発育など)を説明する。

・自然療法や民間療法を使用してより健康に妊婦様を導くために必要な東洋医学の知識を持てるよう支援する。

・助産師が行っている施設のため、責任と判断については医師がいる施設とは違いがあるということを常に念頭におき、責任ある行動をとれるよう意識を持たせるようにしている。知識や技術については最新のエビデンスや医学的な勉強も必要である。分娩介助に関しては初めに説明を行い、その後、共に実技として手を添えながら行う。自己学習として、あかちゃん人形を利用したイメージトレーニングをするよう説明している。陣痛中のケアは共に行い、進行していると判断されたときに、アセスメントや介入するタイミング、行うケアについて共に確認している。また、お産の終了時に振り返りをゆっくり行う。

・妊婦健診に関しては、計測、心音聴取などの簡単な技術に関しては何度も行えるように機会を生かしている。値がおかしいときは共に行い、正常値を把握しておくように話している。

・妊婦さん(ご家族)が主体のお産であることを徹底できるよう言葉使い、ふるまいに細かく気を配るように話している。小規模の施設の良さ、おもてなしの気持ち等を大切にするように、よく説明している。

2. 事業の効果および評価に関すること(自由にご記入ください)

・新人の受け入れに関する概要ができたので、以後はその経験を生かして、より働きやすい職場づくりに役立てたいと思います。

・新人は助産院には来ないことが多いと思いますが、助産院での仕事は病院とは違った仕事内容です。病院で数年だけ勤務した方でも、助産院では新人と同じ部分も多いです。したがって、免許取得後初めて就労する新人だけでなく、もっと対象者の経験年数をあげてもいいと思います。